

小栗柚香頂

きよかきゅう

僧侶、

漢詩人。

天保二年八月四日豊後國生れ、明

治二十二年十一月三日歿（八三—九）。

幼名實丸、大哉。號八洲、蓮

船。眞宗大谷派、戸次へつぎの妙止寺住職。京都高倉學寮に學ぶ。のち本願

寺擬講、排耶護法論を説く。明治初年支那開教を自指し上海に假別院

を開く。病を獲く歸國。爾後本山教授となり全國を布教。

著書 『喇嘛教沿革』卷一（明治十年二月京都・石川益台刊）、『大

家説教演説』（合著・多田了知編、明治二十五年八月十八日京都・西

村法藏館）、『軍人説教律誌』第一編（合著・西村七平編、明治二十

七年十一月十日）京都・法藏館）、『雜居準備』（内題「明治二十

二年中外雜居我黨の準備」高木政勝筆記、明治二十年十一月一日三重

・西川弘構編刊）、『晚年私言』（明治二十二年八月八日博文堂）等。